https//www.kinki-sha.org/

近畿学校保健学会通信

No.163

2022年10月20日発行
近畿学校保健学会事務局
〒570-8555　大阪府守口市藤田町6-21-57
大阪国際大学　後和研究室
TEL : 06-6902-0791　FAX : 06-6902-8894
Mail : kinkigakkohokengakkai@gmail.com
振込口座　00940-5-181826

目　　次

故　小西博喜先生 追悼文 …… 2
第69回近畿学校保健学会（2022年度年次学会）報告
1. 第69回近畿学校保健学会を終えて …… 3
2. 一般講演座長報告 …… 4
3. 会長講演報告 …… 6
4. 基調講演報告 …… 6
5. 特別講演報告 …… 7
6. 2022年度近畿学校保健学会奨励賞 …… 8
7. 学会印象記 …… 8
2022年度近畿学校保健学会奨励賞抄録 …… 9
2022年度近畿学校保健学会評議員会・総会報告 …… 10
2022年度第1回近畿学校保健学会幹事会議事録 …… 12
第2回選挙管理委員会議事録 …… 13
第3回選挙管理委員会議事録 …… 14
編集後記 …… 14
2022～2024年度幹事及び評議員名簿 …… 15
2022～2024年度監事名簿 …… 16
日本学校保健学会第68回学術大会（ご案内） …… 16

会費納入のお願い

本学会は会員の皆様の年会費を主な財源として運営しております。

2022年度の会費（3,000円）をまだ納めておられない方は，早急にお振込みくださいますようお願いいたします。

また，会員の皆様におかれましては，周囲の方々に本学会への入会をお勧めください。
右記のQRコードや学会ホームページから会員登録が可能です。よろしくお願いいたします。

故　小西博喜先生のご逝去を悼む

本学会の名誉会員小西博喜先生は，去る2月22日に90歳にて永眠されました。会員一同を代表して謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先日，京都地区の名誉会員である八木保先生より，小西博喜先生の訃報をお知らせいただきました。

小西先生は，1955年より洛星高校の保健体育の教員となり，在職中に京都大学の川畑愛義先生や大山良徳先生とともに幾多の研究論文を発表され，1969年に京都産業大学講師となられました。その後，1974年に京都工芸繊維大学工業短期大学助教授，その後京都工芸繊維大学工芸学部教授となられ，京都を中心としてご活躍されました。その後，川崎医療福祉大学教授，近畿福祉大学教授なども歴任されました。なお，1990年に和歌山県立医科大学の武田先生のもとで医学博士を取得されました。2012年に京都で近畿学校保健学会が開催されたときに八木保先生，寺田光世先生とともに名誉会員として推挙されました。そのときお会いした折には，お元気で大変紳士的なお方だった印象があります。

これまで発育や体力についての研究をされ，とくに栄養との関連について多くの業績を残されました。「栄養判定基準に関する研究」，「肥満・やせの評価判定に関する試案」，「栄養指数の時代別・年齢別推移についての横断的研究」など，現在のこどもの肥満ややせの判断の基準のもととなるデータを多く残されました。

近畿福祉大学（現神戸医療未来大学）在職中には，障害者スポーツの普及にも取り組まれ，2004年には日本車椅子ハンドボール連盟の初代会長として，第1回厚生労働大臣杯日本車椅子ハンドボール競技大会を姫路で開催されました。開催にあたっては，健常者と障害者との共生をめざし，学生の大会へのボランティア参加とともに競技への参加も指導されたと聞いています。

先生のご功績に対して2013年に旭日双光章が授与されました。これまでの長年にわたる本学会へのご貢献に感謝するとともに，心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年10月1日

京都女子大学　井上文夫

第 69 回近畿学校保健学会（2022 年度年次学会）報告

1. 第 69 回近畿学校保健学会を終えて

学会長　高野 知行
（びわこ学園医療福祉センター野洲）

第 69 回近畿学校保健学会はコロナ禍により前回に引き続きオンライン開催となり，令和 4 年 6 月 18 日に滋賀県のびわこ学園医療福祉センター野洲より配信いたしました。令和 2 年の年頭より始まった新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大は，令和 4 年 1 月には第 6 波のピークをむかえ，感染者数，死亡者数ともに過去最大規模のコロナ禍となりました。学校関係者並びに医療関係者が疲弊する中，参加者は 53 名，一般演題は 11 題をご登録いただきました。ご参加いただいた先生並びに本学会の開催にご尽力いただいた学会スタッフの皆様に，心より感謝申しあげます。

本学会では「重症心身障害」をテーマに，医療・福祉・教育の観点から障害に対する理解を深めることを目的に 3 つの講演を企画しました。会長講演では，重症心身障害の定義および代表的な合併症に加え，教育現場で実施される医療的ケアなどの重要性について概略的な解説を行いました。基調講演では，びわこ学園理事長の山﨑正策先生より「この子らを世の光に」に象徴される滋賀県の障害福祉の理念とともに，これまでびわこ学園が実践してきた療育活動の歴史と生活支援の内容が紹介されました。特別講演では，佛教大学社会福祉学部の武内一先生よりコロナ禍における子どもたちの生活変化について，多くの疫学データとともに私たち学校保健関係者が留意すべき多くの課題を提示していただきました。一般演題については A 会場では教育と医療について，B 会場では生理とスポーツについて，C 会場では新型コロナウイルスをテーマにそれぞれ研究成果が発表されました。いずれの演題も大変印象的な発表内容でした。

本学会は約 70 年の歴史がありますが，一方では，年々の会員数の減少傾向が懸念されます。将来を担うのは子どもたちです。子どもの健やかな成長を支える学校保健活動が，今後もますます活発に展開されることを願うとともに，本学会の発展を支える若手研究者のさらなるご活躍を祈念したいと思います。

2. 一般演題座長報告

第A会場
＜教育・医療＞

座長　大川尚子（京都女子大学）

A－1　知的障害のある生徒のセクシュアリティに関する現状と学校教育の課題（鶴岡尚子）

包括的概念であるセクシュアリティをめぐって知的障害のある子どもたちが置かれた状況を把握し，特別支援学校でのセクシュアリティ教育構築に向けた示唆を得るために，養護教諭が個別指導の中で捉えた，高等部生徒たちのセクシャアリティをめぐる一側面を考察された研究である。性に関する知識が不足している実態が指導の過程で明らかとなった 2 人の高校生を対象に実施された。これらの事例から，学校における性教育がいかに抽象的で，生徒達の“自然”な学びに頼っているかが浮き彫りになり，知的障害のある生徒が科学的知識と人権にそった性的自己決定ができるまでの，段階的で，具体的な性の学修を構築していく必要があると考察された。今後のさらなる検討と実践を期待する。

A－2　外部講師による性教育を学校カリキュラムと関連付けるための方策（森本雅子 他）

性教育において，外部講師の授業の内容の学びを，普段の授業と関連付けることで，効果が持続するのではないかと考え，外部講師，学校におけるその方策を探るため，4 名の学校教員に，①性教育担当経験，②性教育への抵抗感，③外部講師による授業の参観，④外部講師による授業との関連，⑤外部講師との打ち合わせ，⑥助産師に望む内容，⑦SNS の影響の 7 項目について面接調査を実施し検討された。その結果，保健体育科だけでなく，他教科を担当している教員からも，性教育と授業内容と絡めた内容について，命をどう扱うかという視点でつながりを持つことができるという意見があり，関連付けの必要性があると考えられたと報告された。今後はこの調査結果を基に，教科間の関連付けの具体的な方策や実施の可能性について調査をされるということであるので，今後の調査にも期待する。

A－3　看護臨床実習終了後の，学生のメタ認知的活動について（毛利春美 他）

養護教諭養成課程における学外実習である看護臨床実習における評価を基に，学生のメタ認知的活動のプロセスを明らかにして，その発達過程を考察することを目的に研究された。学生による自己評価と実習指導者による実習評価を基に，実習終了後，実習評価返却時に学生に半構造化面接を実施し分析された。結果，学生の自己評価は，実習指導者による他者評価より高い傾向にあり，「看護臨床実習で学んだことを養護実習で活かしたいこと」について，【教員としての資質強化】，【実習生としての基本的態度】，【自己の課題に取り組む】の 3 つのカテゴリーにわけられ，大学における学外実習は，メタ認知能力育成に影響を及ぼすことが分かったと考察されている。研究成果を生かして，さらに看護臨床実習の学びを深めていただきたい。

A－4　滋賀県における医療的ケア児を取り巻く教育場面での医療支援体制の実態に関するアンケート調査（永江彰子 他）

医療的ケア児支援の立場から，学校現場での支援体制の実態を把握し，滋賀県の施策を考えることを目的に，滋賀県立特別支援学校の管理職，養護教諭を含む医療的ケアに関わる教職員，学校看護師および学校医を対象に，1）各職種における医療的ケアに関する業務の実施状況，2）医療的ケアの業務に関する意見，3）自由意見についてアンケート調査を実施され，課題を抽出された。抽出された課題は，①医療と教育の連携，②登下校，③医療的ケア実施に関わる人的物質的環境整備，④学校看護師の業務の 4 点に集中していることが判明した。解決困難のものが多い中で，医療と教育間の双方向の簡単なコミュニケーションで解決しそうな課題も散見されたと考察された。今後，解説できそうな課題から取り組んでいただきたい。

第B会場

＜生理・スポーツ＞

座長　笠次良爾（奈良教育大学）

B－1　大学生を対象にした深呼吸による思考および気分の変化についての検討（竹端佑介 他）

本発表は，現代の情報過多社会における問題のひとつである「マインドワンダリング(MW)」に焦点を当て，ストレスマネジメントのひとつである深呼吸の効果を検証したものである。結果として深呼吸ではMWを変化させることはできなかったが，思考中断努力については15回の講義後に有意な交互作用が認められ，効果のある可能性が示唆された。気分に関しては，安定度，快適度，覚醒度いずれも深呼吸前よりも後で点数が良くなっていたが，15回の深呼吸介入を行った後の方が初回よりも点数が下がっていたことが興味深く，深呼吸の導入方法だけでなく，別のストレスマネジメント方法の効果検証などの検証も必要であると思われた。

B－2　中学校運動部員の傷害防止に関わる意識，取組，及び運動器検診結果（山本千津子 他）

本発表は中学校運動部員の障害防止に関わる意識と取り組みについて調査を行ったものであるが，傷害経験を有するもしくは多い生徒の方がストレッチ日数が有意に多く，RICEの知識，体のケアも有意に良好であった。また生活習慣との関連では傷害経験が無いもしくは少ない方が朝食摂取が有意に高かった。妥当な結果であると考えられるが，朝食摂取については朝練の有無など摂取しない背景についての検討が必要であること，また発表者も述べているが傷害経験の無い生徒への障害防止教育方法についての検討が必要で有り，今後の研究に期待が持てる。

B－3　高校生のスポーツ外傷・障害予防のための保健医療関係者との連携（十川真由美 他）

本発表は学校の管理下の災害において頻度の高い運動部活動中の外傷・障害に対して，指導者の意識に焦点を当てた報告である。スポーツ傷害予防に必要な内容として適切な医療機関の選択や医療機関との連携が，医療関係者への予備調査で抽出されたものの指導者における回答率は低いことが興味深い点として挙げられた。質疑応答の中で述べたように，今後運動部活動の外部委託という流れもある中で，運動部活動の指導者に必要なことと求められる役割を明らかにすることは，スポーツ傷害予防だけでなく，これからの運動部活動指導そのものにも有用な調査であると思われた。

B－4　高校生を対象としたスポーツ外傷・障害予防教育の評価―知識・態度・行動の観点から―（山本順子 他）

本発表は外部の医療専門家を招いたスポーツ外傷・障害予防教育の効果について，4つの高校で介入と振り返り学習の有無により4つのパターンに分け，予防教育と振り返り学習の効果検証を試みた興味深い取り組みである。交互作用がほとんど認められず，予防教育の実施時期や振り返り学習の効果が見られなかったが，そもそも時期Ⅰの得点の平均値がD,A校＞B,C校であり学校毎に背景が異なることから，様々な背景を踏まえた分析は難しいと思われた。しかし，この地域では外部の医療専門家を招いた本教育が昔から継続して実施されている先進的な地区であることから，その効果を検証する本研究は非常に意義があるものと思われ，今後の分析に期待が持てる。

第C会場

＜新型コロナウイルス＞

座長　龍田直子（大津市健康保険部保健所）

C－1　新型コロナウイルス感染症における養護教諭の現状について（地海和美）

研究者の所属する地域の養護教諭91名を対象に，1.コロナ禍における保健室対応，2.養護教諭から見た児童生徒の様子，3.養護教諭自身の執務や不安，4.その他，に関する調査を実施し，結果と考察について報告がなされた。多くの養護教諭は，学校再開当初，情報や物品が不足するなか，感染予防対策に従事することで，心理的負担を抱えていた。保健室を利用する児童生徒は，欠席児童の増加や，体調不良時はすみやかに帰宅と

する指示により，コロナ以前に比べ減っていたが,「居場所として」来室する児童は増えており，児童生徒の心身のケアの重要性が示唆された。

C－2　コロナ禍における不登校児支援に関する予備的考察ー養護教諭のヒアリング調査を手がかりにー（八木利津子）

経験歴30年以上の養護教諭を対象に，保健室登校事例の対応経験について半構造化面接を実施し，対応時の留意点や支援内容等について聴き取り，養護教諭の望ましい対応や求められる能力について報告がなされた。不登校児支援において養護教諭は，児童家族への対応，居場所づくり，多職種との調整など幅広く，担任や特別支援コーディネーター等に代わる役割も担い，それらに際して，観察力，判断力，対応力，調整力，発信力，呼応力，調整力等が求められていた。フリースクール職員を対象とした追調査では，支援の視点や多様なかかわりを把握し，フリースクール等外部機関との連絡連携の必要性についても言及された。

C－3　コロナ禍における非接触型レクリエーションの心理的効果（高山昌子 他）

新型コロナウイルス感染拡大のため，学習や活動内容の変更が余儀なくされている状況下，非接触型レクリエーション活動の心理的効果についての報告であった。大学授業において，3種目（ラダーゲッター，キャッチングザステイック，ボッチャ）を実施し，質問紙検査を用いて，主観的運動強度や前後での気分の変化について調査した結果，いずれの種目も運動強度は高くないが，活性度や快適度，覚醒度などにおいて良好な心理状態に向かっていた。また，参加者からは他者との交流・協力を肯定的に捉えた感想も多く，コロナ禍におけるレクリエーションの可能性や，対象を広げて実施できる可能性を示唆するものであった。

3．会長講演報告

「発達期の脳障害と重症心身障害」

講師：高野知行（びわこ学園医療福祉センター野洲）

報告者：大平雅子（滋賀大学）

会長講演では，会長の高野知行先生より，先生の所属されているびわこ学園とも関連の深い発達期の脳障害と重症心身障害について分かりやすくご講演をいただいた。

重症心身障害児の多くが4つの症候（脳性麻痺，知的障害，行動異常，てんかん）のいくつかを重複して有している方々大半である。さらに，周産期障害や遺伝性疾患が2大要因であることを説明いただいた。

また，重症心身障害の病態の特徴の一つは，非常に多くの合併症を伴う点であり，脳の障害そのものによる神経症状以外にも，筋緊張異常や感覚異常などの合併症が全身に及ぶことについても詳細に説明いただいた。

重症心身障害児などの重度の障害を有する人たちが，治療とは別に通常の日常生活を送るために必要な医療的な生活援助行為を「医療的ケア」と呼ぶ。令和3年6月11日には「医療的ケア児支援法」が成立したとのことで，医療的ケアの必要な人たちを家族とともに，社会全体で支えていこうという基本理念が明確化されたとのことである。このような社会的背景を踏まえ，学校保健に関わる我々も，今学会を契機に医療的ケアに対する理解をさらに深めていくことが重要であることを強調された。

4．基調講演報告

「重症心身障害児者の支援～びわこ学園の実践から～」

講師：山崎正策（社会福祉法人びわこ学園）

報告者：口分田政夫（びわこ学園医療福祉センター草津）

基調講演は，「この子らを世の光に」という糸賀先生の理念，それから「発達保障の理念を中心に取り組まれてきたびわこ学園の実践についてご講演をいただいた。

近江学園創設から重症心身障害施設の創設に向かった，びわこ学園の誕生前夜が語られた。ま

たその過程で生まれた，糸賀先生，岡崎先生の療育理念について話された。『この子らを世の光に」という理念，自己実現という生産の概念や人格発達の権利の保障という考えを紹介された。重症心身障害施設運営の中で生じた①入所の適応障害，②いのちを守る立場と育てる立場をめぐる対立，③腰痛問題の課題に立ち向かった歴史が語られた。また，びわこ学園の仕事の特質として，収容ではなく，子どもたちの発達を促進する療育を目指していたことを強調された。

初代園長岡崎先生は，全力で生きる子どもたちと相対すること，ともに生き，感覚を通してふれあう中で，相互の関係性を発展させていくこと，そのことが共に生きる社会を目指していくことになると考えておられたとの説明があった。療育映画「夜明け前の子どもたち」とその後夜明けは明けたか？という映画「私の季節」の紹介があった。最近では，超重症という医療的に重症度の高い人達の出現が新たな課題となっているとの報告があった。人間の発達，人格の発達の基盤である関係性の発達と愛着行動について，最近の心理学的知見からの紹介があった。

最後に改めて，びわこ学園の理念として，糸賀先生，岡崎先生の療育理念に触れられ，その実践のためには共に生きる環境が大切であり，支援者側の豊かなコミュニケーションによる信頼の中でこそ実現できると講演を結ばれた。また，座長の丸尾教授との質疑で，重症心身障害を支える地域のネットワークの重要性が確認された。療育の原点を考える貴重な機会となった。

5. 特別講演報告

「子どもの権利を医療と福祉・教育を結び考える～コロナ禍での子どもたち～」

講師：武内　一（佛教大学社会福祉学部）

報告者：高野知行（びわこ学園医療福祉センター野洲）

特別講演では佛教大学社会福祉学部の武内一先生より，コロナ禍における子どもたちの生活変化についてご講演をいただきました。2年間にわたるコロナ禍は6回の感染拡大の波をもたらし，国内での死亡者数は3万人を超えました。

この間，第1波での20歳未満の死亡者数は最低レベルにあったにもかかわらず，感染拡大の予防策として学校閉鎖が実施されたこと，また，第6波での20歳未満の死亡者数が34%と最も高率であったにもかかわらず，この年齢層でのワクチン接種率が最も低いレベルに留まっている点を問題視されました。また，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による子供たちへのストレス要因として，学校に関するもの（例：学校が急に休校になったこと，勉強についていけるか・・・），COVID-19への恐れ（例：コロナがうつるかどうか，コロナが増えてきた・・・），家族間のストレス（例：きょうだいけんか，みんなイライラしてた・・・），パンデミック対策に伴うもの（例：マスクを着けずに外に出て，周りの人から迷惑がられ・・・）の4項目を指摘されました。

さらに，3歳から中学3年生の子どもがいる世帯を対象とした，所得格差と子供の生活状況との関連について，コロナ禍前後（2019年と2021年）での疫学調査の結果が提示されました。この中で，相対的貧困家庭で暮らす子どもたちの様々な現実を，親からだけではなく子ども自身の声も合わせ紹介されました（例：小4「遊ぶ時ダメなことが多い・・」，小6「総理大臣はオトナのことしか考えてない・・」，中1「誹謗中傷のない社会になってほしい・・」，中3「不条理な社会と思う・・」）。加えて，子どもの権利保障の主体者として，家族を取り巻く「社会」の果たす役割の重要性を強調されました。「社会」の一員である私たち学校保健関係者にとり，多くの問題提起をいただいた貴重な特別講演となりました。

6. 2022年度近畿学校保健学会奨励賞

選考委員会による審査の結果，次の者が2022年度近畿学校保健学会奨励賞として採択された。

受賞者：森本雅子（兵庫教育大学大学院）

演題：外部講師による性教育を学校カリキュラムと関連付けるための方策

（抄録はP.9に掲載）

受賞のことば

森本雅子（兵庫教育大学大学院）

第69回近畿学校保健学会が，昨年に引き続きオンラインで開催されました。昨年はパソコンの画面で見ているだけでしたが，今回思い切って，初めての学会発表をさせて頂きました。そしてこの度，第69回近畿学校保健学会奨励賞に選出していただき，心から感謝申し上げます。自分の研究をこのように評価していただいたことは，大変光栄なことと思っております。この受賞を励みに，研究を進めていきたいと考えております。

一般演題では，大きな緊張の中での発表でしたが，質問やご指摘をいただき，研究の次のステップとなるヒントを得ることが出来ました。また，参加されている先生方の興味深い発表を拝聴することが出来ました。今回の学会テーマ「重症心身障害への理解：医療・福祉・教育を考える」について，午後の講演では重症心身障害児者についての知識や支援の実践について学びました。特別講演では武内一先生による，コロナ禍での子どもたちに関わる視点でのお話を拝聴することが出来ました。「コロナ禍」と言われ始めて2年以上になりますが，子どもたちへの影響の大きさを考え，それぞれの立場から支援する必要性を感じました。

最後になりましたが，対面での実施が困難な状況の中，オンライン形式で素晴らしい学会を開催していただきました高野知行学会長はじめ，学会開催・運営にご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

7. 学会印象記

地海和美　（栗東市立大宝東小学校）

最初に，2022年の近畿学校保健学会が，Webという形で開催された事とご準備くださった皆様に感謝申し上げます。

基調講演では，びわこ学園の創立から現在までの経緯を聞き，「この子らを世の光に」の理念に込められた思い感じることができました。また，特別講演では，コロナによる社会変化に伴い，子ども達の状況がどのように変わったのかを調査から細やかにお話しいただきました。教育現場に携わる者として，社会環境の変化，家庭の状況が子ども達に与える影響を深く感じ，個々の子ども達に対応した関係機関との連携や支援を考えていくことの大切さを感じました。

今回，私は養護教諭の立場として，「新型コロナウイルス感染症」における学校の状況，養護教諭が感じた子ども達の様子，執務について発表させていただき，今までにない感染症対策を学校で行う中で，組織対応や情報収集，連携の大切さを再認識できました。今後も，様々な状況の子ども達がいる学校の中で，子ども達の気持ちや背景を感じながら，日々の執務や支援，実践を積み重ね，他分野の先生方との協働につなげていきたいです。

2022 年度近畿学校保健学会奨励賞 抄録

外部講師による性教育を学校カリキュラムと関連付けるための方策

森本雅子，十川真由美，西岡伸紀
兵庫教育大学大学院学校教育研究科

キーワード：性教育，中学校，外部講師，助産師，教科間関連付け

【目的】

近年，若年者の人工妊娠中絶数は減少傾向にあるが，若年妊婦の出産数は減少していない．この中に，望まない妊娠をして出産に至ったケースがあると推測される．望まない妊娠防止のため，助産師等の専門職の外部講師が性教育を行うこともあるが，単発で終わることも多く，学習効果を持続させるのは難しいと思われる．そこで，外部講師の授業の内容の学びを，普段の授業と関連付けることで，効果が持続するのではないかと考えた．外部講師，学校におけるその方策を探るため，学校教員に面接調査を実施し検討した．

【方法】

中学校教員経験のある現職教員，現職大学院生 4 名に，個別に，１時間程度，半構造化面接を実施した．質問は，①性教育担当経験，②性教育への抵抗感，③外部講師による授業の参観，④外部講師による授業との関連，⑤外部講師との打ち合わせ，⑥助産師に望む内容，⑦SNS の影響の７項目で実施した．

【倫理的配慮】

対象者に，本研究の趣旨，インタビュー実施目的，学校及び個人が特定されない配慮のもとでデータ使用許可の了承を得た．

【結果】

対象者は，現職教員１名と現職大学院生３名である．内容については，②の性教育への抵抗感は，「どこまで踏み込んでいいか悩む」「若いころは抵抗感があったが，子どもを知ることで今は無い」，⑥の助産師に望むことは，「集中力の持たない子や，言葉での理解が難しい子がいるので具体物がある方が良い」「生徒自身のことだけでなく，周囲の人のサポートの視点も必要」，⑦SNS の影響については，「情報リテラシーを身につけてほしい」「大人に対してきつい言葉を使い，やり取りは出来ているつもりでも，相手の言うことがおかしいと判断出来ていないことに気づいていない」等の意見があった．その他の主要な結果については表１に示した．

【考察】

今回の調査で，保健体育科だけでなく，他教科を担当している教員からも，性教育と授業内容と絡めた内容について，命をどう扱うかという視点でつながりを持つことができるという意見があり，関連付けの必要性があると考えられる．今後はこの調査を基に，教科間の関連付けの具体的な方策や実施の可能性について，質問紙調査を実施する予定である．

表１　インタビューの主要な結果

	A 氏	B 氏	C 氏	D 氏
①性教育担当経験	無い。自分の担当科目でジェンダーが絡んでくる内容があったが，教科の視点から深入りしていない。	無い。	有り。学活で外部講師の授業の前に事前学習。自分の担当教科で，生物の生殖の話。	有り。担当教科が保健体育なので，第二次性徴や「性」は心の生き方という話をする。
③外部講師による性教育	性教育について，ずっと関係がある担任が話すのと全然違うと思うので，外部から来たプロの方にしっかり話してもらいたい。	保健師の授業は，専門の方が話すことで説得力がある。	学校では説明しない，実際にあった内容を話されるので勉強になったという意見あり。	他市での講演会を見たことがある。赤ちゃん人形を使用した命の教育。
④担当教科と性教育との関連	命をどう扱うかという意味で他教科や道徳・学活等とつながりは持てる。切り口をどうするか。	出前講座も単発で終わるので，系統づけるのはカリキュラムマネジメントとして良いのでは。	自分がやりたいのは，他の生物とヒトとの比較。生殖の利点とリスクを伝えることが出来たら。	講師の授業を受けて，それをふまえて道徳等様々な授業展開すれば意義があると思う。
⑤外部講師との打ち合わせ	総合担当の先生が実施。身内と死別した子，性的な衝動が抑えられない子等の情報を伝えて配慮してもらっている。	体育の女性教員が担当。養護教諭や学年の教員の関わりは無い。	養護教諭と学年主任，内容によっては生徒指導も入ることがある。	最近は，敏感な子がいるので，状況などを伝えて，気をつけてほしい言葉を伝える。

2022 年度近畿学校保健学会
評議員会・総会報告

議題：1. 2021 年度事業報告
2. 2021 年度決算報告及び会計監査報告
3. 2022 年度予算案（事業計画）
4. 名誉会員の承認
5. 次期学会開催地及び会長
6. 近畿学校保健学会役員選出規程の改正

議決方法：Web投票
投票期日：2022年6月11日（土）23時59分まで

1. 2021 年度事業報告

1）会員数
204 名（名誉会員 13 名を含む, 2022 年 3 月 31 日現在）

2）会議開催，学会通信など

・幹事会（Web 会議）
2021 年 5 月 9 日 第 1 回幹事会開催
[2021 年 5 月 7 日 近畿学校保健学会 2020 年度会計監査（於：大阪国際大学）]
2021 年 9 月 26 日 第 2 回幹事会開催
2022 年 1 月 24 日 第 3 回幹事会開催

・常任幹事会（Web 会議）
2021 年 4 月 18 日 常任幹事会開催
2021 年 8 月 30 日 常任幹事会開催
2021 年 12 月 23 日 常任幹事会開催

・選挙管理委員会
2021 年 9 月 26 日 第 1 回委員会開催（Web 会議）
2022 年 2 月 7 日 第 2 回委員会開催（於：大阪国際大学）
2022 年 2 月 23 日 第 3 回委員会開催（於：MEETING SPACE AP 大阪駅前）

・年次学会，評議員会及び総会
2021 年 6 月 19 日 第 68 回近畿学校保健学会年次学会開催（Web 開催）
会長： 高田恵美子（畿央大学）
2021 年 6 月 19 日 2021 年度評議員会及び総会開催（Web 開催）

・学会奨励賞
2021 年 6 月 19 日
2021 年度近畿学校保健学会奨励賞
「中学生における伸張ー短縮サイクル動作遂行能力の経年変化」國井 洸樹（天理大学）

・研修セミナー
2021 年 9 月 23 日
2021（R3）年度研修セミナー開催（Web 開催）
内容等：課題別に小グループで意見交換，全体でのミニレクチャー，質疑応答，意見交換等
講師：近畿学校保健学会幹事会メンバー

・学会通信
2021 年 5 月 26 日
近畿学校保健学会通信 No.159 発行
2021 年 10 月 13 日
近畿学校保健学会通信 No.160 発行
2022 年 2 月 7 日
近畿学校保健学会通信 No.161 発行

近畿学校保健学会会員数

2022 年 3 月 31 日現在

所属	名誉会員	評議員	一般会員	計
滋賀県	1	9	17	27
京都府	3	8	17	28
大阪府	4	20	34	58
兵庫県	2	15	30	47
奈良県	2	4	15	21
和歌山県	1	9	13	23
計	13	65	126	204

名誉会員名簿（14 名）

2022 年 6 月 18 日現在

年	氏名	所属
2004 年	大山良徳	大阪
2010 年	勝野眞吾	兵庫
2012 年	小西博喜	京都
2012 年	寺田光世	京都
2012 年	八木　保	京都
2014 年	大矢紀昭	滋賀
2014 年	堀内康生	大阪
2014 年	三野　耕	大阪
2015 年	山本公弘	奈良
2016 年	藤本正三	大阪
2017 年	横尾能範	兵庫
2017 年	北村陽英	奈良
2019 年	松本健治	和歌山
2022 年	川畑徹朗	兵庫

2. 2021 年度決算報告及び会計監査報告

2022 年 3 月 31 日現在

【収入】

	予算額	決算額	増減額	摘要
会計収入	600,000	606,000	6,000	会費@3,000 円×202 人
役員選挙積立金	66,000	66,000	0	2022～2024 年度役員選挙
雑収入	0	10,000	10,000	広告費
前年度繰越金	1,277,976	1,277,976	0	
合計	1,943,976	1,959,976	16,000	

【支出】

	予算額	決算額	差額	摘要
印刷費	80,000	68,610	-11,390	学会通信（No.159～No.161）
郵送費	120,000	68,860	-51,140	学会通信発送費等
事務費	20,000	10,236	-9,764	学会通信発送封筒代等
人件費	30,000	0	-30,000	事務雇用費等
会議費	30,000	0	-30,000	常任幹事会，幹事会（年 3 回）
2021 年度研修セミナー	50,000	0	-50,000	1 回開催（9 月 23 日）
役員選挙費用	99,000	52,188	-46,812	2022~2024 年度役員選挙
年次学会補助金	200,000	200,000	0	滋賀県・第 69 回事務局へ
ホームページ維持費	40,000	12,828	-27,172	サーバー・ドメイン年間契約料
予備費	1,274,976	0	-1,274,976	
小計	1,943,976	412,722	-1,531,254	
次年度繰越金	0	1,547,254	1,547,254	
合計	1,943,976	1,959,976	16,000	

【目的別預金】

内訳	予算額	決算額	預金額	摘要
役員選挙積立金	-66,000	-66,000	0	2022~2024 年度役員選挙

上記の通り相違ありません。

2022 年 4 月 26 日

監事　毛利 春美

監事　玉井 久実代

3. 2022 年度予算案（事業計画）

【収入】

内訳	予算額	前年予算額	増減額	摘要
会費収入	600,000	600,000	0	会費@3,000 円×200 人
役員選挙積立金	0	66,000	-66,000	2025~2027 年度役員選挙
雑収入	20,000	0	20,000	広告費等
前年度繰越金	1,547,254	1,277,976	269,278	
合計	2,167,254	1,943,976	223,278	

【支出】

内訳	予算額	前年予算額	差額	摘要
印刷費	100,000	80,000	20,000	学会通信（No.162～No.164）
郵送費	120,000	120,000	0	学会通信発送費等
事務費	30,000	20,000	10,000	学会通信発送封筒代等
人件費	30,000	30,000	0	事務雇用費等
会議費	30,000	30,000	0	常任幹事会，幹事会（年 3 回）
2021 年度研修セミナー	50,000	50,000	0	2 回開催予定
役員選挙積立金	30,000	0	30,000	2025～2027 年度役員選挙
役員選挙費	0	99,000	-99,000	2022～2024 年度役員選挙
年次学会補助金	200,000	200,000	0	滋賀県・第 69 回事務局へ
ホームページ維持費	60,000	40,000	20,000	サーバー・ドメイン年間契約料
予備費	1,517,254	1,274,976	242,278	
小計	2,167,254	1,943,976	223,278	
次年度繰越金	0	0	0	
合計	2,167,254	1,943,976	223,278	

【目的別預金】

内訳	予算額	前年預金額	予定預金額	摘要
役員選挙積立金	30,000	0	30,000	2025~2027 年度役員選挙

4. 名誉会員の承認

川畑徹朗先生（神戸大学名誉教授・近畿学校保健学会幹事･JKYB ライフスキル教育研究会代表）

5. 第70回近畿学校保健学会 開催地及び会長

開催地：和歌山県

会長：入駒一美　（東京医療保健大学）

6. その他

新幹事長・常任幹事の承認

新幹事長：後和美朝（大阪国際大学）

常任幹事：大平雅子（滋賀大学）

笠次良爾（奈良教育大学）

宮井信行（和歌山県立医科大学）

2022年度

第1回近畿学校保健学会幹事会議事録

日　時：2022年5月8日（日曜日）

13:00～15:30

場　所：ZoomによるWeb開催

出席者：【幹事長】後和

【常任幹事】大川，西岡，宮井

【幹事】

（滋賀）大平，高野

（京都）井上，藤原

（大阪）白石，吉岡

（兵庫）川畑，鬼頭，中村，春木，森脇

（奈良）笠次，高田，辻井

（和歌山）内海，森岡（計20名）

委任状：楠本，古角（計2名）

事務局：竹端

【監事】玉井

議　題：

1. 第69回近畿学校保健学会の開催について

・開催方法，プログラム内容について

年次学会長の高野幹事より，第69回近畿学校保健学会の開催は新型コロナウイルス感染症の終息の見込みがないため，オンライン開催とすること，これに伴い，発表者，参加者に対する参加マニュアルを作成するとともに，一般演題発表者のリハーサル日を設けるとの報告がなされた。

その他，高野幹事より，プログラムの内容（開始時間，演題数，メイン会場の設定等）の説明がなされ，幹事より演題や所属の表記についての指摘があり，修正された。

・学会通信 162 号の掲載内容と発行時期

後和幹事長より，掲載内容の修正があるため学会通信 162 号の発行時期については 5 月 18 日を目安としている旨の説明がなされた。

・評議員会および総会の運営方法

後和幹事長より，第69回近畿学校保健学会はオンライン開催となるため，評議員会・総会は電磁的方法で実施し，Web投票（Google フォーム）による議決をとり，学会当日に結果を公表するとの説明があり，承認された。

2. 2021 年度事業報告，会計報告および監査

・2021年度事業報告について

宮井常任幹事より，2021年度事業報告について資料をもとに説明があり，承認された。なお，2021年度の会議（幹事会および常任幹事会）はいずれもWeb開催となったこと，第 68回近畿学校保健学会はオンライン開催となり，2021年度評議員会・総会については電磁的方法で実施されたことの報告があった。その他，第 68回近畿学校保健学会奨励賞，2021年度研修セミナーの開催について報告がなされた。

・2021 年度会計報告および監査について

大川常任幹事より，2021年度会計報告について資料をもとに説明があり，玉井監事より会計処理が適切に行われていた旨の報告がなされた。この件，後和幹事長より資料に誤植があるとの指摘があり，監査について再度実施する旨の説明があった。

3. 2022 年度予算案（事業計画）について

大川常任幹事より，2022年度予算案（事業計画）について，資料をもとに説明がなされた。

幹事より【収入】「予算額」における「前年度繰越金」と【支出】「予算額」における「予備費」についての指摘があった。この件について確認がなされ，2022年度予算案の「収入」，「支出」の一部記載について修正することで，承認された。

4. 役員選出規程の改正について

後和幹事長より，役員選出規程（第5条〔投票〕および第6条3項〔幹事長および常任幹事の選出〕）について資料をもとに，改正案の説明があり，承認された。

5. 名誉会員の推薦について

鬼頭幹事より，川畑徹朗先生（神戸大学名誉教授・近畿学校保健学会幹事・JKYB ライフスキル教育研究会代表）を名誉会員として推薦する提案がなされ， 兵庫県幹事より承認がなされるとともに，出席幹事からも承認が得られた。

6. 次期年次学会（第70回近畿学校保健学会）開催地会長について

後和幹事長より，第 70 回近畿学校保健学会の開催地が和歌山県となることの報告がなされた。これにあたり，和歌山地区代表の内海幹事より学会長として入駒一美先生（東京医療保健大学）の推薦がなされ，承認された。

7. 学会通信162号について

後和幹事長より，資料をもとに学会通信 162 号についての説明があり，余白箇所についての広告掲載の提案がなされ，承認がされた。その他，幹事より誤植の指摘があり修正がなされるとともに，学会発表における団体等の発表およびその所属記載についての確認がなされた。

8. その他

特になし

特別審議：

審議に先立ち，後和旧幹事長より新幹事の紹介がなされた。

1. 2022～2024年度幹事および評議員選挙結果

宮井選挙管理委員長より，2022～2024年度幹事および評議員選挙の結果について資料をもとに説明がなされた。投票期間は2022年2月8日～20日で，投票率が全体で64.4%であったこと，2月26日に選挙管理委員で開票作業を行い，役員選出規定に基づいて各府県の幹事および評議員が決定されたことが報告された。また，評議員辞退者が大阪地区で3名，兵庫地区で1名，和歌山地区で1名あり，それぞれ繰り上げ当選があったこと，さらに兵庫地区においては，名誉会員の承認につき，幹事および評議員で繰り上げ当選がなされたとの報告があった。

2. 新幹事長の選出について

幹事の任期満了に伴う次期幹事長の選出について，近畿学校保健学会規程（第6条1項）に基づき，後和旧幹事長より候補者の自薦・他薦の申し出がなされたが，候補者の推薦がなかったため，新幹事を被選挙人として幹事長選挙をWeb投票（Google フォーム）にて行った結果，後和旧幹事長が新幹事長として再選出された。

新幹事長の選出により，近畿学校保健学会規程（第6条1項）に基づき，2022年度近畿学校保健学会評議委員会における「2022年度～2024年度幹事長選出」について後和新幹事長より具体的な議決方法として，郵送による投票もしくは電子投票の案が提案され，電子投票にて行うことで承認された。なお，常任幹事および監事の選出については後和新幹事長に一任することが承認された。

その他，幹事より，新幹事長の選出における近畿学校保健学会規程（第6条1項）の文言変更について提案がなされ，継続審議することとなった。

3. その他

森岡幹事より，一般社団法人日本学校保健学会第68回学術大会での近畿学校保健学会による後援について提案がなされ，承認された。

2021年度
第2回選挙管理委員会議事録

日時：2022年2月7日（月）10：00～11：30
場所：大阪国際大学
出席者：【委員長】宮井（和歌山）
【事務局】竹端
【オブザーバー】後和（幹事長）

1. 選挙権者および被選挙権者の確定

事務局で用意した会費納入状況をもとに，2021年12月31日までの会費納入者が有資格者であることが確認され，選挙権有資格者160名，

被選挙権有資格者133名を確定した。

2. 投票用紙発送作業

宮井選挙管理員長のもと，非選挙人名簿，投票用紙，投票用紙封入用封筒，返信用封筒の封入作業が事務局により行われた。

3. 選挙日程について

予定通り，投票期間は2022年2月8日～2月20日（消印有効）とし，開票日は会場の都合により2022年2月23日から2022年2月26日に変更されたことが確認された。

4. その他

特になし

2021年度

第3回選挙管理委員会議事録

日時：2022年2月26日（土）
　　13：00～15：30
場所：MEETING SPACE AP 大阪駅前
出席者：【委員長】宮井（和歌山）
　　【委員】大平（滋賀），井上（京都）
　　白石（大阪），森脇（兵庫），
　　笠次（奈良）
　　【事務局】大川（常任幹事），竹端
　　【オブザーバー】後和（幹事長）

1. 投票用紙の確認について

投票用紙の発送は160票，返送は103票で，投票率は 64.4%であった。各府県の詳細は下記のとおりである。

滋賀：15票（75.0%），京都：13通（65.0%），
大阪：34通（69.4%），兵庫：20通（60.6%），
奈良：8通（42.1%），和歌山：13通（64.4%）

2. 開票作業について

選挙管理委員が所属地区の開票をした後，他の府県も再度チェックし一覧表を作成した。その後，府県別に評議員の確定を行い，上位から幹事を確定した。

3. 選挙結果送付について

選挙結果は開封作業当日（2月26日）に評議員・幹事ともに発送された。辞退者のみ3月5日までに事務局に連絡し，辞退者が出た場合の繰り上げ当選の対応については，補欠者名簿より行うこととなった。

4. その他

特になし

編集後記

今期より常任幹事を務めさせていただくことになりました。10年前に滋賀大学に着任し，最初に取り組んだ附属学校園の養護教諭と共同研究をした内容で第60回近畿学校保健学会会賞をいただき，非常に励みになりました。そんな思い入れのある学会で，常任幹事を務めさせていただくことを感慨深く感じると同時に，会員の皆さまにとって有意義かつ活発な学会となるよう微力ながら力を尽くしたいと思います。さて，来月には日本学校保健学会第68回学術大会が和歌山県で開催されます。Web 形式での開催ですので，様々な企画を皆さまのペースでゆっくりとご覧いただくことが出来るかと思います。近畿学校保健学会からも，教育講演や課題別セッションで様々な企画をしておりますので，ぜひご参加いただければ幸いです。

（常任幹事　大平雅子）

2022～2024 年度幹事及び評議員　（▲は幹事）

2022 年 4 月 1 日現在

滋賀県　　幹事定数 3　　評議員定数 9

	板持　紘子	元 滋賀医科大学
	大迫　芳孝	滋賀県薬剤師会
▲	大平　雅子	滋賀大学
	木村　誠	木村歯科医院
	小西　眞	小西医院
▲	住吉　由加	栗東市立栗東西中学校
▲	高野　知行	びわこ学園医療福祉センター野洲
	龍田　直子	大津市健康保険部保健所
	地海　和美	栗東市立大宝東小学校

京都府　　幹事定数 3　　評議員定数 8

▲	井上　文夫	京都女子大学
▲	長村　吉朗	京都市学校医会
	河上　栄治	京都府薬剤師会
	杉本　英造	京都市学校医会
▲	藤原　寛	元　京都府立医科大学
	松井　道宣	京都府医師会
	八木　利律子	桃山学院教育大学
	安岡　良介	京都府歯科医師会

大阪府　　幹事定数 6　　評議員定数 20

	池田　行宏	近畿大学
▲	大川　尚子	京都女子大学
	楠本　久美子	元　四天王寺大学
	久保　加代子	関西女子短期大学
	甲田　勝康	関西医科大学
	小島　美幸	大阪市立湯里小学校
▲	後和　美朝	大阪国際大学
▲	白石　龍生	日本福祉大学
	高山　昌子	大阪国際大学
▲	竹端　佑介	大阪国際大学
	玉井　久実代	大阪国際大学短期大学部
▲	出水　典子	白鳳短期大学
	中島　敦子	千里金蘭大学
	西木　澄江	大阪市立池島小学校
	藤田　大輔	大阪教育大学
	藤田　裕規	近畿大学
	古川　恵美	兵庫県立大学
	松永　かおり	大阪市立今里小学校
	毛利　春美	畿央大学
▲	吉岡　隆之	日本福祉大学

兵庫県　　幹事定数 5　　評議員定数 15

▲	五十嵐　裕子	和歌山県立医科大学
	衞藤　佑喜	北里大学
	大平　曜子	兵庫大学
	小原　久未子	関西医科大学
▲	北口　和美	元　姫路大学
▲	鬼頭　英明	法政大学
	澤田　隆	兵庫県学校歯科医師会
	永井　純子	福山平成大学
	中村　朋子	兵庫大学
▲	中村　晴信	関西医科大学
▲	西岡　伸紀	兵庫教育大学
	長谷川　ちゆ子	元　湊川短期大学
	細川　愛美	兵庫大学
	森脇　裕美子	姫路獨協大学
	山本　千津子	西宮市立鳴尾南中学校

奈良県　　幹事定数3　　評議員定数4

▲	笠次　良爾	奈良教育大学		高橋　裕子	天理大学
▲	高田　恵美子	畿央大学	▲	辻井　啓之	奈良教育大学

和歌山県　　幹事定数3　　評議員定数9

	有田　幹雄	角谷リハビリテーション病院		服部　園美	和歌山県立医科大学
	入駒　一美	東京医療保健大学	▲	宮井　信行	和歌山県立医科大学
▲	内海　みよ子	東京医療保健大学		宮下　和久	和歌山県立医科大学
	寒川　友起子	和歌山県立医科大学	▲	森岡　郁晴	和歌山県立医科大学
	辻　あさみ	和歌山県立医科大学			

2022～2024年度監事

森脇　裕美子	姫路獨協大学		高橋　裕子	天理大学

ご案内　日本学校保健学会第68回学術大会の課題別セッションを閲覧できます！

日本学校保健学会第68回学術大会長の森岡郁晴です。

今回，近畿学校保健学会の後援をいただき，感謝しています。

それで，近畿学校保健学会の会員の皆様にもお役に立つように，**課題別セッション2「養護教諭とICTの活用－新型コロナウイルス感染症対策における養護教諭に必要な力－」**をオンデマンドで配信させていただきます。このセッションのコーディネーターは，大川尚子先生（京都女子大学）です。健康観察や健康相談をICTを活用して実施する，感染症予防教育などの保健教育をオンデマンドで配信する，関係機関との連絡のためにオンライン会議をするなど，ICTを活用した養護教諭の取り組みが紹介されます。いずれも明日からの実践に役立つ内容だと思います。

・オンデマンドの配信は，11月7日から11月30日までです。

・動画掲載のURLとパスワードは後日メール配信させていただきます（メールアドレスの登録がお済でない方はkinki.sch.hlth@gmail.comまでご連絡ください）。

日本学校保健学会第68回学術大会は，「学校保健，人生100年時代の礎」をメインテーマとし，11月5日，6日にはライブ配信プログラムがあり，7日以降はすべてのプログラムがオンデマンドで配信されています。これらを閲覧するには，参加登録が必要です（会員になる必要はありません）。詳しくは，年次学会ホームページ（http//web.apollon.nta.co.jp/jash68/）をご覧ください。多くの方の参加をお待ちしています。

お問い合わせ等は，大会事務局にお願いします。

第68回学術大会事務局　e-mail：jash68@wakayama-med.ac.jp

担当　辻あさみ（事務局長）